

私たちの先生

理工学部情報科学科
長田典子ゼミ感性情報学から
身近な生活を豊かに

長田ゼミを選択したのは先生が学生一人ひとりの個性や志望をちゃんと認めてくれて「面白そうだから一緒に研究しよう」と迎え入れてくれたからです。長田先生は「理系の先生」のイメージとはかけ離れ、明るく気さくで、純粹



ながたのりこ 大阪府出身。京都大学理学部卒業後、三菱電機(株)に入社。産業システム研究所でロボットビジョン・外観検査など産業応用の研究開発に従事。その後、大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程を1996年に修了。2003年から関西学院大学理工学部助教授。映像メディアや音楽メディアについて、工学的・心理学的・脳科学的側面からの研究を進める。

一番良いところになるとブツツと途切れてCMが始まるということがありますが、その時の視聴者の脳活動や心拍、呼吸など生理心理指標を調べると、そこで集中が切れて、CMが終わってもも集中力を回復できないケースが見られます。

このようなことが幼児の発育に与える影響などについて調べたいと思っています。

ゼミの雰囲気はとにかく明るく、居心地がいいです。それぞれの学生がおも

な好奇心を持った先生です。週に一度の全体ゼミには画像を扱う「CGゼミ」、メディア評価を行う「マルチメディアゼミ」、生理心理学や脳科学を主体とした「心理ゼミ」の大学3年から大学院M2までの学生が揃い、順に発表します。私は心理ゼミに属してテレビCMの挿入タイミングについて研究しています。よくドラマなどでストーリーが盛り上がり

しるい研究をしていて、互いに良い刺激になります。例えば「色聴現象」について研究しているゼミ生もいます。この現象は音を聴くと、ある色が漠然と見えてくるという現象です。イ長調の音楽を聴くと赤色が見える…など。色聴所有の人とそうでない人が音を聴いたときの反応を脳血流の変化などで調べているのです。そのほか初対面の人と自分の年齢の比較を瞬時に



横井真一さん

理工学研究科M1

どのように判断しているのかを調べる「主観年齢」研究など興味深い研究ばかり。

長田先生はいつも学生の声にしっかりと耳を傾けてくれます。研究の道は決して安易ではありませんが、何かを「成し遂げて残す」ことを目標に頑張っています。

先生からひと言

感性情報学とは、好みや楽しさ、美しさなどの感覚をどのくらい好きかどうかのくらい似合うか数値として表現するものです。マーケティングやコンテンツ制作など様々な応用があるわけですが、少しでも身近な生活を豊かにすることに繋がっていきたくと考えています。

— 学生たちへ —

簡単に言えば「主体的に動く」ことです。成績が良く、言われた通りにできても発展できない。指示がないと進まない学生が増えています。それで、「次は何をしましょうか」と何度も尋ねる。自分で方向を定め、進めていく能力を養うには、学生時代にいろいろな経験を積み、何かひとつ成功を体験することだと思えます。失敗を恐れず、とにかくチャレンジしてみてください。また研究分野の違う学生がお互いに吸収しあい、チーム力を上げていくことを期待しています。